

N-Plus
「New」「Next」をプラスする製品開発技術展

N+Technology N+Sustainability
2025 10.15(水) 17(金)
東京ビッグサイト 東ホール

展示会ニュース Vol.2
News

発行元:エヌプラス事務局

〒100-0013

東京都千代田区霞が関1-4-2

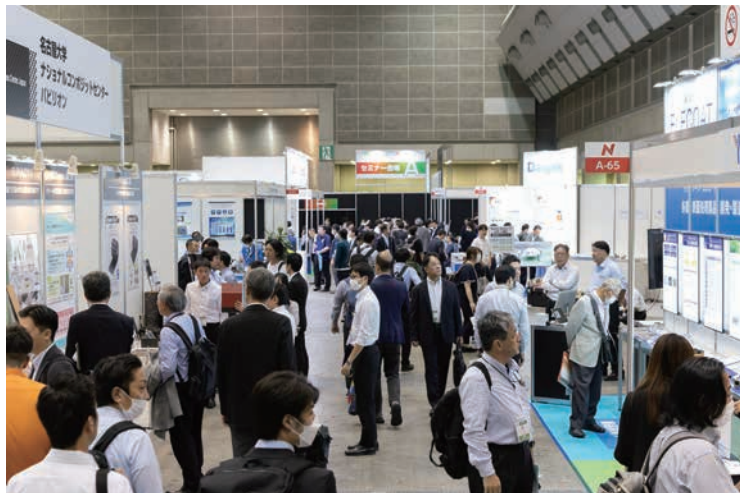
大同生命霞が関ビル4階 アテックス(株)内

TEL : 03-3503-7621

www.n-plus.biz

mail : office@n-plus.biz

ものづくりのリアル展『エヌプラス2025』最終出展申込受付中！



**革新が集まる場
「エヌプラス2025」**

エヌプラスは、高機能なものづくりを実現する最新技術・製品が集う専門展示会である。各展示ゾーンから見てくる注目のトピックを、出展企業と製品を通して紹介する。

進化する樹脂加工と材料の展示会「プラスチック高機能化展」には環境対応と機能向上を両立する提案が集まる。伊澤製作所は、75年の歴史に裏打ちされた精密プラスチック加工技術を紹介。エクシールは、衝撃吸収・緩衝用途に適したウレタンゲル素材を実物展示。喜多村は、リサイクルPTFE添加剤など、環境性と性能を両立した次世代技術を紹介する。構造設計を支える「軽量化・高強度化展」にはカーボンニュートラルと製品性能の両立を目指す技術群が集まる。ファソテックは、カーボンファイバー対応3Dプリンタを展示。高強度・軽量の複雑形状を一

製造業を支える「ものづくり技術」が一堂に会する展示会「エヌプラス(N-Plus)」が2025年10月15日(水)〜17日(金)に東京ビッグサイト東ホールで開催される。本展は2010年に東京ビッグサイトで初開催されてから今年で16回を数える。展示構成はプラスチックのみならず、様々な素材とその開発技術に加えて、近年では開発DXのためのサービス・ソフトウェアまでに拡大されてきた。本展には、自動車・航空・エレクトロニクス・化学など、幅広い製造業の技術者や開発部門が来場。出展者から製品化前の技術提案や、他業種連携による新規開拓の場として高く評価されている。

現在、出展者募集の最終受付中。次年度予算を意識した秋の展示会出展を検討する企業は多く、事務局には現在も問い合わせが寄せられている。本号では出展者・展示情報を踏まえ、エヌプラスの見どころや最新トピックを紹介する。(出展者情報は裏面参照)

製品開発のヒントがいっぱい——素材・加工の専門展

体成形する技術に注目だ。積水化成品工業は、植物由来ポリリサイクル素材を用いた独自の発泡複合体を提案。日本ケミカルスクリーンの高強度樹脂ねじは、軽量・非磁性・絶縁性を兼ね備える。

人気の「受託・付加製造・加工技術展」にはものづくり課題解決の提案が集結。アスクは、自社設備60台と国家検定技能士による超短納期体制を紹介。多品種少量品の加工からメッキ・焼入れまでを一貫手配。Astemo精工は自動車・食品・建機部品の一貫加工やコーティングに対応し、SGICは世界最高性能のダブルベルトプレス装置を披露。CFRTP、機能性フィルム、電子材料などの量産ニーズに応える。AIとデータで進化するDX分野では研究開発支援の展示が集まる。「生産・製造・開発DX展」でMIR6は材料探索・分析を支援するMIPプラットフォームを紹介。また、SUPWATは機械学習による生産現場のデータ解析サービスを紹介し、データ活用による開発の加速を提案する。

高機能化を支える 接着・表面処理技術

ものづくりの根幹を支える、さまざまな技術にも、今、環境対応や機能向上の波が押し寄せている。「接着・接合展」では、京浜ラムテックが次世代接合技術「同期撚接合」を展示。従来の加工機へ簡単に搭載でき、高速・高強度・低温接合を可能にする技術だ。SUNAOYAが紹介する分子接合技術は、接着剤を使わずに化学結合によって異素材を高強度に接合する独自技術。ZACROSのホットメルト接着フィルムは、環境性能に優れた異素材接着ソリューション。また、睦月電機は、金属と

樹脂を接着剤レスで直接接合可能な技術を紹介。レーザーと加熱圧着を組み合わせた軽量・短納期・高品質を実現している。

「コーティング・表面処理展」では、倉敷ボリリング機工が摩耗や腐食対策に最適な金属・セラミック・サーメット溶射を展示。林精器製造は、ニッケルフリーのめっきや高外観性表面処理など、アルルギー対応と美観性を両立する技術を展開。日本電鍍工業は、金めっき・アルマイト・電着塗装といった多様な表面処理技術を紹介し、軽量化・耐食性・美観向上といったニーズに応える。魁半導体は、プラスマ処理による超微細・粗化加工など、多機能化に貢献するナノ表面制御技術を訴求。ワカヤマの展示は、高密着性と調色技術を活かした外観仕上げ。医療・化粧品分野のデザイン性に応える。

今回のエヌプラスでは2010年の立ち上げ当初からの構成展「機能性フィルム展」が復活。機能性フィルム研究会パビリオンの出展者を中心に、機能性・審美性・生産性を高次元で両立させるフィルム開発技術の展示があり、製品開発の進化を支える基盤技術として大きな注目を集めそうだ。

スタートアップの 活躍に期待

エヌプラスでは「スタートアップ企業特別プラン」と題し、設立10年以内の企業を対象に、革新的な製品・技術を持つスタートアップの出展を支援している。限られた予算でも出展しやすいコンパクトプランを提供し、業界の活性化を後押しする。グリーンケミカルは非可食バイオマスからバイオプラ原料を生成する独自技術を持ち、協業先である王子ホールディングスが先ごろパイロットプ

ラントの竣工を発表したことで大きな注目を集めている。ほかにも、海洋プラごみの再資源化に取り組み buoy、化学素材開発支援のMISOFTを紹介するアルバート・インベント、図面アップロードによる試作最適化サービスを展開する3D Printing Corporation など、多彩な企業が出展を決め、その先進的な取り組みに期待が集まる。

空飛ぶクルマの展示会 「フライングカーテックノロジー」

特別企画展「フライングカーテックノロジー」には空飛ぶクルマの社会実装を支える取り組みが集う。出展ブースでは、IHI運搬機械が都市空間の有効活用を提案するモビリティハブ「バーティポート」を紹介。また、黒崎播磨は非接触でウェブ製品を搬送する浮上搬送装置を出展。さらにNEDOは、次世代空モビリティ実現に向けた取組みを発信する。

また、主催者企画として特別展示と併催セミナーを設置。セミナーでは本年も中野冠実行委員長(慶応義塾大学)にテトラ・アビエーション中井佑氏、skydrive福澤知浩氏を交えた基調講演に加え、大阪府やSoracielが開幕直後の万博の総括と、次の展開を見据えた講演を企画。その他、メーカーによるバーティポートについての専門的な講演や、国家機関や地方自治体の取り組みについての企画が進行中だ。

主催者企画 「共同出展パビリオン」に注目

特別企画展示として、昨年に引き続き3団体とのタイアップブースを設置。6月末時点で「日本不織布協会パビリオン」には14社「機能性フィルム研究会パビリオン」には12社「NCC(名古屋大学ナショナルコンポジットセンター)パビリオン」には17社の出展が決まっており、昨年から大きく規模を拡大する見込みだ。またフライングカーテックノロジーでもパビリオンを設置。研究機関や自治体などの展示が予定されており、次世代空モビリティの実装に向けて有益な情報交換を促進する。

N-Plus 2025 10/15(水) 17(金)
東京ビッグサイト 東ホール
「New」「Next」をプラスする製品開発技術展
ニッポンの素材と技術が世界を創る

